

平成29年度 項目別の自己評価表 [仙台保健福祉専門学校]

1. 学校の教育目標

仙台保健福祉専門学校は、学校教育法に基づき、医療及び教育・社会福祉の分野における職業と、実生活に必要な専門的知識・技術・技能等の能力と教養を持ち、社会に貢献できる人材育成を目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 「専門教育」と「人間教育」をめざす。

- ①国家資格取得および各種検定試験合格率の向上(クラス担任が学生一人ひとりの性格や課題を把握し、早期に対応する)。
- ②豊かな人間性と教養を身につけ、コミュニケーション能力を持つ社会人の育成。
- ③学生生活や実習等を通して、挨拶の励行・提出期限の厳守等基本的な生活習慣の定着を図る。

(2) 入学生の確保と学費等の滞納率低下をめざす。

- ①18歳人口の減少を鑑み、入学生の確保に取り組み、学校運営の安定化を図る。
- ②奨学金を受ける学生が増加の傾向にあり、学生の学費等納入計画を学校側が個別に管理し、保護者を含めた対応を考える。個々の返還を含め、奨学金制度について、しっかり理解してもらうとともに、学費納入については、学校側からも早めの対応を心掛ける。

また、日本学生支援機構奨学金の返還延滞については社会的にも問題提起されているところである。

平成28年3月末

本校の延滞率 3.8% (専修学校全国平均 8.8%)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	4 (4)
学校における職業教育の特色は何か	4 (4)
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 (4)
学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護者等に周知されているか	4 (4)
各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 (4)

① 課題

当校は、医療専門課程の「理学療法科」「作業療法科」「歯科衛生科」、教育・社会福祉専門課程「介護福祉科」「こども科」の5科を持つ。いずれの職種も「人と関わり、接する専門職」であり、社会的ニーズも高い。学業に励み、国家試験に合格することはもちろんのこと、現場で求められる「人と接する、人から見られている」という意識を持った学生を育てていくという使命感を強く持っている。

一方で、入学生の中には、入学前のイメージとのギャップを感じて退学する場合もある。保護者・担任・科長を含めた面談等では、職業教育および人材育成像などについて説明し、目標・目的の共有を図っているが、退学を避けられないこともある。引き続き、学生生活アンケート「ハイパーQU」等アセスメントを活用し、退学者を出さない努力をする。

② 今後の改善方策

職業実践専門課程として各業界のニーズに応じた教育目標や人材育成をより明確にし、企業と連携した教育活動を実践することで具現化に取り組む。学生一人ひとりの性格や特性を把握しながら、保護者との連絡を密に取り、進級・卒業・就職に繋げていく。

③ 特記事項

入学前のオープンキャンパスや入学後のオリエンテーション・保護者会等で、教育目標や育成人材像等を説明している。特に、国家試験に合格するための日々の学習に加え、「人と接する専門職」に就くためのコミュニケーション能力育成など、志の高い職業人輩出を目指して努力している。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 (4)
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 (4)
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 (4)
人事、給与に関する制度は整備されているか	4 (4)
教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4 (4)
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3 (3)
教育活動に対する情報公開が適切になされているか	4 (4)
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 (4)

① 課題

教育活動に関する情報公開は、高校生に対してはホームページや広報物および体験入学会等での説明を通じて行っているが、時代に応じた適切な対応をしていきたい。

システム化については、教職員それぞれが専用のパソコンを持ち、日々の業務に使用しているが、情報セキュリティと、容易に使える効率的なシステムの構築を学園本部との連携ですすめたい。稟議書等は試験的に電子化され、一定の業務効率化につながっている。

② 今後の改善方策

ホームページの充実とタイムリーでわかりやすい情報公開を目指して、広報担当者と協議の上対応していく。ブログ等に関しては、各科毎に週一回程度、更新している。

③ 特記事項

試験的な導入も含め、学内掲示板による備品、教室、公用車の一括管理および稟議書等の学内文書を電子化し、教職員間の情報共有化による業務効率化を高めている。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	4 (4)
教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (4)
科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (4)
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 (4)
関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	4 (4)
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4 (4)
授業評価の実施・評価体制はあるか	3 (3)
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 (4)
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (4)
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3 (4)
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる用件を備えた教員を確保しているか	3 (4)
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	3 (3)
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (4)
職員の能力開発のための研修が行われているか	4 (4)

① 課題

5科すべてが厚労省養成施設としての指定を受けており、指定に則ったカリキュラムで教育が実践されている。こうしたカリキュラム、進級判定・卒業判定基準等については、学則や学生便覧を通じて学生に周知している。また、経済的な理由で退学を余儀なくされる者もおり、進学時に家族間での相談が不可欠である。

② 今後の改善方策

職業教育に関する外部関係者からの評価のあり方について、評価基準の策定等に関する協議を通じて明確化させる。

③ 特記事項

なし

(4) 学習成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
就職率の向上が図られているか	4 (4)
資格取得率の向上が図られているか	3 (4)
退学率の低減が図られているか	4 (4)
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3 (3)
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3 (3)

① 課題

平成 29 年度の国家試験合格率は（理学療法科 65.2%、作業療法科 91.7%、歯科衛生科 100%、介護福祉科 100%）。引き続き、就職に直結する国家試験合格率の維持・向上を課題として取り組んでいく。特に理学療法科は一昨年 93.3%から大幅にダウンし、安定的な合格率を達成すべく施策が必要。

卒業生の教育への参加は、学校祭等での在校生向け講話などを通じて実施しているが、キャリア形成に結びつく卒後教育や評価の体制は整備されておらず、今後の課題である。

② 今後の改善方策

本校は、全員卒業・全員受験・全員合格を達成し、専門分野に就職することを目的としており、国家試験合格率向上のための補習や特別対策授業等を実施している（夏季・冬季の長期間の休みを利用し、学生ひとり一人が各々の弱点を克服できる特別対策授業等）。その中で、理学療法科では個人の状況を的確に把握し、担当教員制で個人指導を実施する。

理学療法科と作業療法科では同窓会組織を設け、卒業生と本校の交流の場として活用しているが、今後はこれを卒後教育に活用することを計画している。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
進路就職に関する支援体制は整備されているか	4 (4)
学生相談に関する体制は整備されているか	4 (4)
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3 (4)
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 (4)
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 (4)
学生の生活環境への支援は行われているか	4 (4)
保護者と適切に連携しているか	4 (4)
卒業生への支援体制はあるか	3 (3)
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (4)
高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (4)

① 課題

学生への経済的支援は各種奨学金の案内等を通じて、一定の対策は講じている。また生活支援についても、寮の設置や、スクールバスの運行等を行っている。しかしながら、家庭の経済的な問題でアルバイトが避けられない学生や、そのために休学する学生もおり、よりきめ細かな支援策が求められている。

② 今後の改善方策

各担任による学生との個人面談、保護者との密な連絡によって、学生の抱える問題を早期に把握し、可能な支援策を提案していく。学生に対する経済支援の一つとして、学費分納に関するアナウンスを十分に行い、退学率低減の一助とする。

社会人の入学促進のための新しい仕組みを構築中であり、社会人ニーズへの的確な対応を図る。

③ 特記事項

出席状況や成績に関して定期的に保護者に情報提供を行っており、電話連絡やメールでのやり取りを含めて、担任と保護者間の連携は取られている。また、2年前より文部科学省の専修学校専門課程修学支援実証研究事業に採択され、学生の経済的支援を充実させている。

歯科衛生科では、学生に奨学金制度を運用している医療法人徳真会のスタッフ向けブラッシュアップ講習会を学内施設にて実施している。

学生の活動では、軟式野球部(20名)の他、軽音部(5名)が発足し活動している。また、平成29年度より、バスケットボール部(男子11名、女子8名)も活動を開始している。フットサル部も学生からの要望がある。その他、学生の要望から、パン・菓子類と乳製品・飲料(ヨーグルト、プリン、コーヒー等)の自動販売機を設置し、学生の需要も高い状況である。学生食堂では昼食の無料提供(29年度一人一回)を実施し、30年度に向けて学生のニーズを業者さんと把握し、寮生や一人暮らし学生の健康管理や国家試験対策期(特に10月から2月)にも繋げたいと考えている。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (4)
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3 (3)
防災に対する体制は整備されているか	3 (4)

① 課題

学外実習は必須の教育内容であり、十分な体制が整備されているが、海外研修を含めた人間教育のあり方についてさらに検討が必要である。

防災や備蓄については事務局の協力の下、適切に行っている。学生個人の備蓄も促し、避難場所についても学生個人に調べさせ、情報を学校に提出させるなどの取り組みも行っている。災害時における学生個人との連絡方法については、携帯電話が一般的と考えるが、通信困難等の問題に対する二次的な対応策の整備も必要である。

② 今後の改善方策

大震災時は停電や揺れによるサーバーダウン等で、インターネットによる対応が難しかったことに鑑み、長期的に強固なネット環境の整備を行う。又、地震だけでなく、火災や豪雨に対する計画は見直しが必要である。

校舎建築から10年を迎え、教育機器等も修理・取り換え等が必要不可欠となっている。必要設備・器具については、歯科衛生科を中心に30年度予算に計上した。

③ 特記事項

年度初めに、定期的に避難訓練の実施と防災講話を行っている。

(7) 学生募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
学生募集活動は、適性に行われているか	4 (4)
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 (4)
学納金は妥当なものとなっているか	3 (4)

① 課題

複数の科で定員割れが生じているが、特に介護福祉科、こども科への入学生不足が顕著である。社会的ニーズは非常に高いものの、希望者がなかなか増加しない。この領域での積極的な広報活動が必要である。学納金の妥当性は今後、継続的に検討する。

② 今後の改善方策

引き続き、施設等との産学連携も視野に学生募集につなげる。

③ 特記事項

本校教員による高校訪問を実施し、学校各科独自の周知・認知活動を行う。入試においては、全科にて指定校推薦制度を改変し、入学金免除制度を導入した。

介護福祉科では、宮城県より委託を受け「介護従事者確保対策事業」を継続して実施している。
例) 高校内でのガイダンスや訪問等の経費に補助金を活用している。

また、平成 28 年度より(株)ユーキャンと協働で介護福祉士実務者研修のスクーリング(介護福祉士国家試験受験要件として実務経験ルートは必須)を社会人向けに展開している。

こども科では宮城県より委託を受け職業訓練養成を受け入れ、保育士養成科として、無事 5 名が修了した。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (4)
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 (4)
財務について会計監査が適当に行われているか	4 (4)
財務情報公開の体制整備はできているか	4 (4)

① 課題

現時点において財務的に大きな問題はないが、経年劣化による建物内の改修が必要と思われる部分もあり、ある程度の改修費用が必要となる。

② 今後の改善方策

国家試験合格率の向上、広報活動の社会人等への拡大などを通じて、入学生の増加を図ることが財務基盤の安定化に必要と考えている。

③ 特記事項

なし。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 (4)
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 (4)
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 (4)
自己評価結果を公開しているか	4 (4)

① 課題

本校の教育は厚労省の養成課程であり、法令・設置基準等の遵守や適正な運営を行っている。一方、自己評価については、実施後の振り返りや課題改善への取組が不十分であり、公表を行う上での組織体制も未整備であり、課題とするところである。

② 今後の改善方策

学校関係者評価委員会の評価をもとに、改善に取り組み、また積極的な公表を行う。
将来的には第三者評価を視野に検討する。

③ 特記事項

なし。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 (4)
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 (4)
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 (4)

① 課題

介護福祉科・こども科では定期的に学生のボランティア活動を行っている。その他の科でも積極的な参加を促している。

② 今後の改善方策

ボランティア要請情報を公開するとともに、学生の活動への相談等を行う。

③ 特記事項

2017 東北復興マラソンの救護センターのボランティアスタッフとして、理学療法科と作業療法科の学生が 25 名、介護福祉科の教員が 1 名参加。30 年度は計画的に協力していく予定である。